

午後Ⅱ試験

全問に共通して、自らの体験に基づき設問に素直に答えている論述が多かった。一方で、問題文に記載してあるプロセスや観点などを抜き出し、一般論と組み合わせただけの表面的な論述も引き続き見られた。問題文に記載したプロセスや観点は例示である。自らが実際にシステムアーキテクトとして、検討し取り組んだことを具体的に論述してほしい。

問 1（業務要件の優先順位付けについて）では、どのような評価のプロセスと評価項目で業務要件の優先度を評価したか、また情報システム開発の目的に沿った重み付けをしたか、を具体的に論述することを期待した。評価のプロセスと評価項目については、多くの受験者が論述できていた。一方で、情報システムの開発の目的と評価項目・重み付けの間の関連が分からない論述や、業務要件ではなくシステム要件を評価している論述も多かった。システムアーキテクトには、情報システムの開発目的を理解した上で、業務要件と情報システムの両面から分析することが求められる。情報システムだけでなく、業務要件と情報システムの両面からの分析能力を高めてほしい。

問 2（情報システムの移行方法について）では、対象業務の特性による制約条件を踏まえ、どのような移行方法を選択したか、移行作業後の業務に支障が出ないようにするためにどのような工夫をしたか、を具体的に論述することを期待した。多くの受験者が業務特性を明確に論述していた。一方で、業務特性の記述がなくシステム上の制約条件を考慮しただけの論述や、対象業務の特性ではなく情報システムの開発プロジェクトの制約を業務特性としていた論述も見られた。システムアーキテクトには、情報システムが業務でどのように使われているのかを正しく理解することが求められる。情報システムの設計、開発に当たっては常に業務を意識してほしい。

問 3（組込みシステムにおけるオープンソースソフトウェアの導入について）では、システムへの外部技術の導入において、オープンソースソフトウェアのもつ利点と注意点を関連部署と検討し、非採用の決定を含め自社開発ソフトウェアとの組合せを考慮したシステム設計の実践経験をうかがわせる論文を期待した。全体的に適切に論述されているものが多かった。一方、システムの一部の構成要素の記述だけであったり、既存のシステムの説明となっていたりして、オープンソースソフトウェアの検討への関与がうかがえない論述も散見された。